



TITLE:

京大広報 No. 329

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 329. 京大広報 1987, 329: 273-282

ISSUE DATE:

1987-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209351>

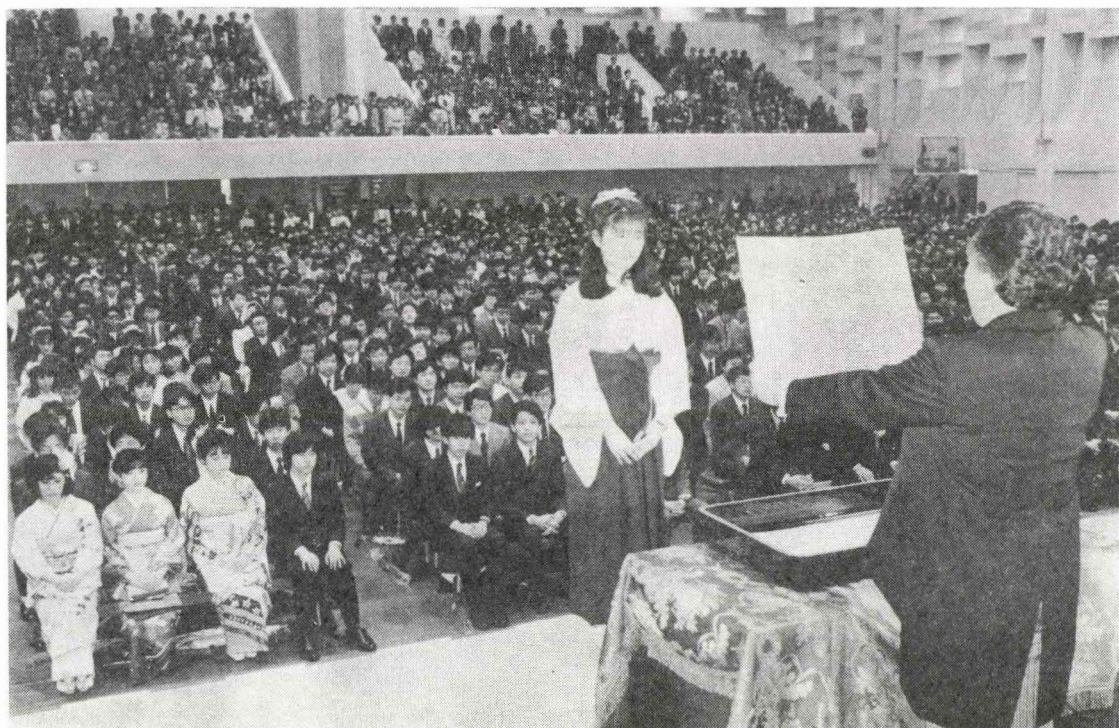
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 329

京都大学広報委員会



昭和61年度卒業式で合格証書を授与される代表学生（3月24日，総合体育館で）

—関連記事本文 278 ページ—

目 次

修士学位授与式における総長のことば		
総長 西島 安則……	274	
卒業式における総長のことば		
総長 西島 安則……	276	
昭和61年度修士学位授与式……	278	
昭和61年度卒業式……	278	
部局長の交替等……	278	
昭和62年度医療技術短期大学部入学試験の結果……	278	
昭和61年度医療技術短期大学部の卒業式・修了式…	279	
吉田寮への入寮禁止……	279	
＜紹介＞		
薬学部放射性薬品化学講座……	279	
訃 報……	280	
＜資料＞		
昭和61年度教育実習実施状況……	281	
＜随想＞		
exact nonsense		
名誉教授 吉住永三郎……	282	

修士学位授与式における総長のことば

昭和62年 3 月23日

総 長 西 島 安 則

本日ここに、名誉教授の先生方のご臨席を賜わり、部局長の先生方と教職員の皆様とともに、昭和61年度修士学位授与式を挙行し、961名の諸君に修士の学位を授与することができました。まず、諸君に、心よりお祝いを申し上げます。

本日、修士の学位を取得されましたのは、文学研究科63名、教育学研究科11名、法学研究科13名、経済学研究科14名、理学研究科122名、薬学研究科36名、工学研究科581名、農学研究科121名、合わせて961名であります。

戦後、昭和28年（1953年）に新制大学院が設置されて以来、本日修士の学位を取得されました皆様を含めて、京都大学は22,886名に修士の学位を授与することができました。京都大学大学院修士課程の最初の宣誓式が行われたのは昭和28年ですが、当時の服部峻次郎総長は、その式において、「新教育制度では、その半ばは一般教育に当てられたため学問的に豊かな基礎がつちかわれた長所はあるが、一面、専門教育の分野においては、旧制度に比して一日の短あるは、否めない結果と言わねばならない。この短を補い、この長をますます展開して、学問水準の維持昂揚を計るのが、このたび設けられた大学院の目的である。」と述べておられます。

それから34年間、今日は第33回目の修士学位授与式に当たります。この間に、本学の大学院は、京都大学の伝統的な学風を受け継いで新しい学術の展開に寄与しつつ、充実してまいりました。そして、国際的にみても極めて高い水準の大学院となっております。本学の修士の諸君が社会において果たしている大きな役割を思いますとき、学問の府としての誇りを感じます。

諸君がこの修士課程において攻究された学問は、それぞれの専門における現在の学術の最先端にあるものです。諸君は、若々しい感受性と勇気をもって、それぞれの道を拓いてきました。これから後、さらに研究室に残って研究を深める場合にも、あるいは、より広い社会のいろいろな分野で活躍される場合にも、諸君がこの修士課程において研究されたこと、そのなかで身に付けられた考え方は、大きな意味を持っています。それは、諸君が今、諸君自身で考えているよりはもっと重い意味を持っていることを、これから後いろいろな機会に感じることにと思います。

京都大学は、その学風として「自由」を大切にし、そして常に「基礎」を掘り下げて学問をすることを強調してきました。この「自由」と「基礎」ということは、人類の知的遺産を継承し、それを発展させるうえで最も大事な二つの柱であります。例えば「生命」ということについての学問の流れを考えてみましょう。生物の世界で、なぜ子は親に似るのか、なぜ生物は同じ種類の生物しか産まないのかという生物の遺伝の本質について、古くから人々は考えてきました。ギリシアの哲学者アリストテレス（Aristotēlēs, 384 B.C.~322 B.C.）は、この遺伝の現象について、「遺伝するのは形質そのものではなく、むしろその発現に関する潜在能力である」という卓越した見解を述べています。このアリストテレスの見解が自然科学のなかで学問体系を創りはじめたのは二千年以上の年月を経て19世紀になってからであります。しかし、この長い間、この生命の神秘を見極めようとする知的な営みは、ずっと受け継がれていたのです。17世紀には、光学顕微鏡によるミクロの世界の探求が始まりました。フック（Robert Hooke, 1635~1703）やフォン・ルーエンフック（Antoni von Leeuwenhoek, 1632~1723）らの初期の顕微鏡を用いた学者達は、数多くの新しい観察をし

した。しかしながら、生命の神秘はまだまだ深い霧の彼方にありました。

19世紀になって自然科学の新しい展開が始まりました。しかしながら、物理学的な諸科学の分野と、生物学的なそれとの間には、なお大きな隔たりがありました。人類の知的遺産の継承のなかで、知識の伝達とともに夢の引き継ぎが大事な役割を果たします。19世紀の後半になって物理学と生物学の学問分野の間の接点が次第にできてきました。物理化学者グレアム (Thomas Graham, 1805~1869) によるコロイドの研究は、有機化学者ケクレ (Friedrich August Kekulé, 1829~1896) の巨大な有機分子の存在の可能性を示す研究と重なり合いながら、生命に関係するタンパク質などの高分子のその後の研究の発端となりました。ちょうどその頃、メンデル (Gregor Johann Mendel, 1822~1884) は遺伝に関するメンデルの法則を発見していたのです。

しかしながら、これらの学問分野が結合して新しい発展を遂げたのは、20世紀に入って1930年以降のことと言えます。生命の科学は20世紀の学問です。遺伝の現象について言えば、一つはいかにして遺伝情報が伝わるのかという問題を解くために単純な生物の遺伝・増殖を中心とした研究が進められました。一方、生命に関係のある分子の構造についての研究は、タンパク質についてのX線回折を中心として著しい発展を見ました。この分野で、ポーリング (Linus Carl Pauling, 1901~) がタンパク質分子等がらせん構造 (helix) をとることを見出したことは、分子生物学の展開の重要な出発点となりました。その後、遺伝情報を担うのが DNA 分子であり、それが二重らせん構造 (double helix) をとっていることを、ワトソン (James Dewey Watson, 1928~) とクリック (Francis Harry Compton Crick, 1916~) が見出しました。これが遺伝の現象を解く重要な鍵となっていることは諸君もご存知のことと思います。このことは、普遍的な物理学の法則が生命に関する科学をも支えることを示したものです。ここで物理的科学と生命科学との結合がなされました。

このような劇的な生命についての科学の展開のなかで、極めて重要な基礎研究を行い、分子遺伝学の中心となる DNA の二重らせん構造の発見への途を切り開いたのはシャルガフ (Erwin Chargaff, 1905~) であります。シャルガフは、クロマトグラフィーという分析方法を駆使して、いろいろの生物の DNA を丹念に分析しました。それは骨の折れる地味な研究でした。そして彼は DNA に含まれる四種類の塩基の比は、同一生物種のいろいろな組織によって変わらないが、生物種によって特異性をもち、この DNA という分子が遺伝物質の特異性を担うものであることを初めて指摘したのです。すなわち、DNA という分子には、この四種類の文字で遺伝の情報が書き込まれているということを見出したのです。今、この四種類の文字をそれぞれの塩基の頭文字をとって A, T, G, C としますと、おもしろいことに、いろいろな特異性をもつ DNA で、常に A と T, そして G と C はいつもそれぞれ同じモル比であることを見つけたのです。この素晴らしい基礎研究の成果が、ギリシアの昔のアリストテレスの考えを20世紀の科学にうつす鍵となったのです。

シャルガフは、このようにして化学から生化学の分野へと仕事を進めていったのですが、彼が70歳になって書いたエッセイのなかで、その動機について次のような述懐をしています。——自分が化学を好きなのは、化学という学問が明らかに解明された中心を持ちながら未知の暗黒に囲まれている (its clarity surrounded by darkness) からであり、また化学からためらいながらも次第に生物学に心を惹かれていったのは、生物学が未知の暗黒を中心に持ちながら生命の神聖さという輝しい光に囲まれている (its darkness surrounded by the brightness of the givenness of nature, the holiness of life) からである。

このような真理の明るさと未知の世界の暗黒との間を行き来することは、研究者に与えられた、より広い意味で人間に与えられた最大の喜びではないでしょうか。それぞれの学問分野において研究を進める中で、諸君はこのような喜びをすでに経験したことと思います。また、これからの人生

においても経験することでしょう。

学問はより綿密な探究を求めて細分化、専門化してきました。しかし、また一方で、そのような専門分野の結合をとおして新しい地平が拓けつつある現在です。美しいつづれ織りの糸を一本ずつほぐしてそれを詳しく調べるなかでも、一方では、それらの糸が織り成す全体の美しさを忘れてはならないのです。

今日は、生命科学の展開のなかに見られる何千年にもわたる壮大な人類の知的遺産の継承と発展のことをお話しました。しかし、このような学問の歴史も、それを支えるのは一人ひとりの「自由」な思索とそれを裏づけるしっかりとした「基礎」なのです。

諸君、いつまでも雄大な夢をもって、それぞれの道に精進してください。

卒業式における総長のことは

昭和62年 3 月24日

総 長 西 島 安 則

卒業生諸君、おめでとうございます。

本日ここに、名誉教授の先生方のご臨席を仰ぎ、部局長の先生方並びに教職員の皆様と共に、昭和61年度卒業式を挙行することができました。文学部206名、教育学部53名、法学部347名、経済学部222名、理学部249名、医学部126名、薬学部77名、工学部854名、農学部290名、合わせて2,424名の諸君が、学士号を取得され、京都大学をめでたく卒業されました。これは、本学の最も大きな慶びであります。本学の卒業生は、旧制時代に49,712名、新制になりましてから71,365名、合わせますと121,077名となります。

この門出の日に当たりまして、皆さんはこれからの人生に対して決意を固めていることと思います。今ここで、皆さんが子供の頃から大学を卒業する今日まで、生きるということ、そして、学ぶということを教えてくださった方々のことをしっかりと思い起こしてください。そして人間の生きるといふことの美しさと知ることの喜びを受け継いできたことの尊さを思い、人生の師に感謝しましょう。そして今日まで皆さんを育て、勉学を支えていただいたご家族の皆様にも、またこれまでの日々を楽しく実り多いものにしてくれた多くの友人たちに、ここで改めて愛と感謝の心を表わしてください。

私はかねてから“教える”ということは“学ぶ”ということであると考え、また、これまで教官としての歳月を過すうちに、ますますその感を深くしています。今、こうして卒業していく皆さんの活き活きとした顔を見るとき、そこに師弟の間に交わすことのできた共感の連鎖を思い、嬉しさというよりはありがたさで胸がいっぱいになるのです。

ジャン＝ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712～1778) は「人生のそれぞれの時期、それぞれの状態には、それ相応の完成というものがあり、それぞれに固有の成熟というものがある。」と『エミール』(Emile, 1762) の中で述べています。

皆さんは初等教育、中等教育、そして高等教育へと進学し、京都大学で卒業研究を行い、学士号を授与されました。卒業研究の大詰めになる頃、研究室で徹夜の実験を重ねたり、あるいはまた、机に向かって思索を深められたりしたことでしょう。教官として、卒業研究の発表会において、卒業生が堂々と学問の流れにおける自分の仕事の位置づけと、そして若々しい考察を学問の将来に向

けて行うのを見るとき、そしてさらに、卒業祝いの会において「京都大学で最も嬉しかったことは、自分で自由に考え、そして思いきり自分なりの仕事ができただことである」と、晴れ晴れと語ってくれるのを聞くとき、いつも私はこのルソーの言った“人生のそれぞれの時期における完成と固有の成熟”という言葉の思い出しながら、喜びを共にするのです。

教育の場においては、常に現在を尊重し、未来のために現在を犠牲にしてはならない。大人としての幸福のために、子供の時の幸福を犠牲にしてはならないと、ルソーは力説しています。

ルソーが『エミール』を書いたのは、1762年、彼が50歳の時ですが、この本は焚書となり、彼に対する逮捕令が出ました。それからルソーは孤独な遍歴の中に迫害と戦いつつ、新しい時代に向けて人間の最も基本的な問題を提起し続けました。彼が最後に『孤独な散歩者の夢想』(*Rêveries du promeneur solitaire*, 1782)を書きながら、静穏な心境の中にこの世を去ったのは、1778年でした。ルソーは18世紀のヨーロッパに生きましたが、彼は我々にとって決して過去の人ではありません。彼の提起した問題は、なお今、我々の問題であります。

京都大学の人文科学研究所で、ルソーについての共同研究が進められたのは戦後間もない頃です。共同研究をまとめるに当たって、桑原武夫先生（現名誉教授）は、次のように述べておられます。「人類の思想の歴史をかりに大河の流れにたとえるならば、それはところどころによどみを形成すると同時に、ところどころ峡谷をなして急湍ないし瀧を生ぜしめている。そしてその瀧を経過することによって思想の流れは、同じ人類の思想でありながら、その性格を変えるのである。」そしてこの瀧にも比すべき人物の一人として、ルソーを挙げ、「瀧ができるのはその流域の地勢によるのと同じく、すぐれた人物の出現もまた時代と社会によるが、しかも偉大と言いうる人間は社会に限定されつつ、しかも以後の社会を規制する力を発揮するのである」と論じておられます（『ルソー研究』、1951年）。今日、我々はいわば瀧の時代にあるのではないのでしょうか。ルソーは人類にとって最も基本的な問題を提起した人ですが、その問題は今日の社会においてより深刻な課題として受け止めるべきでしょう。

皆さんは、それぞれの学部でそれぞれの専門領域を学ぶと同時に、総合大学としての京都大学において、その伝統の中で自由を大事にする学風をしっかりと身につけたと思います。一人ひとりの個性を磨き、固有の成熟の域に達して、今日、卒業の日を迎えたのです。

人間の社会は今、その歴史の中で今までにないほど人間自身の賢明さを必要としています。これからの社会で皆さんの果たすべき役割を考え、一人ひとりが今、持っている心の自由を大切に、勇気をもって歩んでください。ルソーも「習慣の魅力は人間の自然的な怠惰から生じる」と言っています。皆さんの中には研究室に残って、さらに深く学問研究を進める人もあります。また、社会に出てより広い分野で活躍する人もいます。人類がその将来について希望を持てる時代を創るために、これから「何が可能であるか」というよりは、「何を為すべきか」ということを、まず考えねばならない時であると思います。これから皆さんはそういう意味でのリーダーとなるのです。今の皆さんの心の中に、その「何を為すべきか」があると思います。今の心をずっと大切にしてください。

京都大学は今年の6月で創立90周年を迎えます。今後さらにダイナミックに人類の知的遺産を継承し、発展させる「学問の府」として、力強く進んで行きたいと考えています。その京都大学の意義ある発展のための大きな原動力は、京都大学に学び、京都大学を愛する者の世代を超えた絆の中にあると思います。卒業後もいつまでも、母校の伝統の担い手として積極的に母校のために力を寄せてください。

皆さんのこれからの人生が、真の意味での生きがいのあるものであることを祈っております。

＜大学の動き＞

昭和61年度修士学位授与式

3月23日（月）午前10時から、昭和61年度修士学位授与式が、本学総合体育館で挙行された。

学位授与式は、名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに学位記授与が行われ、「総長のことば」があって午前10時40分終了した。

本年度の修士課程修了者は、文学研究科63名、教育学研究科11名、法学研究科13名、経済学研究科14名、理学研究科122名、薬学研究科36名、工学研究科581名、農学研究科121名の計961名であった。

昭和61年度卒業式

3月24日（火）午前10時から、昭和61年度卒業式が、本学総合体育館において挙行された。

卒業式は、名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに行われ、学歌斉唱（京都大学音楽部交響楽団、京都大学合唱団の協力）、合格証書授与、「総長のことば」のあと、「蛍の光」を斉唱して、午前10時45分に終了した。

新学士は、文学部206名、教育学部53名、法学部347名、経済学部222名、理学部249名、医学部126名、薬学部77名、工学部854名、農学部290名の計2,424名であった。

部 局 長 の 交 替 等

文学部長

中 久郎文学部教授（社会学講座担当）が4月1日同学部長に再任された。任期は昭和63年3月31日までである。

法学部長

龍田 節法学部長の任期満了に伴い、その後任として川又良也法学部教授（商法第一講座担当）が4月1日任命された。任期は昭和64年3月31日までである。

理学部長

寺本 英理理学部長の任期満了に伴い、その後任として長谷川博一理学部教授（宇宙線物理学講座担当）が4月1日任命された。任期は昭和64年3月31日までである。

医学部長

佐野晴洋医学部長の後任として、内野治人医学部教授（内科学第一講座担当）が4月1日任命さ

れた。任期は昭和64年3月31日までである。

医学部附属病院長

内野治人医学部附属病院長の後任として、戸部隆吉医学部教授（外科学第一講座担当）が4月1日任命された。任期は昭和64年3月31日までである。

工学部長

赤井浩一工学部長の任期満了に伴い、その後任として神野 博工学部教授（応用固体化学講座担当）が4月1日任命された。任期は昭和64年3月31日までである。

教養部長

佐野哲郎教養部教授（英語担当）が4月1日教養部長に再任された。任期は昭和63年3月31日までである。

人文科学研究所長

竹内 實人文科学研究所長の任期満了に伴い、その後任として尾崎雄二郎人文科学研究所附属東洋学文献センター教授が任命された。任期は昭和64年3月31日までである。

超高層電波研究センター長

加藤 進超高層電波研究センター教授（超高層物理学担当）が4月1日同センター長に再任された。任期は昭和64年3月31日までである。

医用高分子研究センター長

井田一夫医用高分子研究センター教授（歯科理工学担当）が4月1日同センター長に再任された。任期は昭和63年3月31日までである。

昭和62年度医療技術短期大学部

入学試験の結果

昭和62年度医療技術短期大学部入学試験の合格者氏名が、3月16日（月）に発表された。

受験者数及び合格者数等は次表のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
看護学科	80人	218人	183人	90人
衛生技術学科	40	297	274	42
理学療法学科	20	153	136	21
作業療法学科	20	95	84	21
計	160	763	677	174

昭和61年度医療技術短期大学部の 卒業式・修了式

医療技術短期大学部では、3月17日（火）午前10時から、本短期大学部講堂において来賓など臨席のもとに、短期大学部卒業式及び同専攻科修了式を挙行了。式は卒業証書・修了証書授与、学長式辞、来賓祝辞と進行し、午前11時終了した。

この新しい門出を迎えた者は、看護学科86名、衛生技術学科40名、理学療法学科20名、作業療法学科20名及び専攻科助産学特別専攻20名の計186名であった。（医療技術短期大学部）

吉田寮への入寮禁止

吉田寮への入寮禁止については、さる昭和61年3月31日付で告示されたが、このたび本学名で改めて掲示された。

掲示第3号

本学一般

昭和61年4月1日以降、学生寄宿舎吉田寮への学生の入寮については、昭和61年3月31日付掲示第9号により禁止している。

よって、同寮への学生の入寮を認めていないこ

とを改めて告示する。

昭和62年3月1日

京 都 大 学

なお、学生部長は、これに先立ち吉田寮自治会委員長に対して、次の文書を送付した。

京大学厚寮第56号

昭和62年2月27日

吉田寮自治会委員長殿

京都大学学生部長

寛 田 知 義

吉田寮の入寮募集禁止について

昭和61年3月31日をもって吉田寮の在寮期限が到来し、すでに昭和61年3月1日付学生部長名にて入寮募集禁止を通知しているところであります。したがって、昭和62年度以降も入寮募集を行うことは出来ません。

ここに、貴自治会による入学予定者等に対する一切の入寮募集ならびにこれに類する行為を行わないよう改めて通知します。

（学生部）

< 紹 介 >

薬学部放射性薬品化学講座

近年、放射性同位元素（ラジオアイソトープ、RI）を用いる核医学画像診断が活発になり、臨床領域では核医学が独立した分野として、また、薬学領域では放射性医薬品が独立した分野として、それぞれ、急速に進歩してきた。

本学部は昭和39年に、全国の国立大学薬学部に先がけて、本講座を設置し、放射性医薬品の専門教育と研究をはじめた。

核医学画像診断は体内に投与された放射性医薬品の動態を体外からの放射線測定によって追跡し、そのデータを画像化して病変組織の生理的および生化学的变化を解明しようとする診断である。従って、放射性医薬品にはそれに適したRIを必要とするが、それと同時に被験者の放射線被曝を軽減させるために、短半減期RIの選択が必須の条件となる。核医学診断の発想は、サイクロトロン、原子炉で人工RIが製造されはじめた当初からあったが、実際に活性化したのは短半減期RIの実用化のため、 ^{99m}Tc -テクネチウム（ ^{99m}Tc ）

ジェネレータの開発で、 ^{99m}Tc 放射性医薬品が広範囲に供給されるようになってからであり、これはごく最近のことである。以来、 ^{99m}Tc 放射性医薬品はもっとも実用性の高い放射性医薬品として、核医学診断の中心的な役割をもち、その普及がますます進んでいる。

こうした ^{99m}Tc 中心の放射性医薬品に強い衝撃を与えたのが、超小型サイクロトロンの開発に伴って導入された11-炭素、13-チッ素、18-フッ素などのポジトロン放射性医薬品である。これらの有機化合物構成元素の同位体であるRIは、生化学や薬理学などの基礎科学の豊富な知識を背景にした各種生理活性物質を、直接放射性医薬品に用いることを可能にした。さらに、ポジトロンRIの検出にコンピュータ断層画像（PET）の新技術が導入され、ポジトロン放射性医薬品のもたらす診断情報は ^{99m}Tc 放射性医薬品のそれを圧倒した。サイクロトロンの設置という実用面での問題はあっても、この診断は核医学に直ちに受け入れられ、ポジトロン核医学と呼ばれる新しい核医学診断分野が築かれるに至った。

本講座が設置された昭和39年頃は、丁度、 ^{99m}Tc

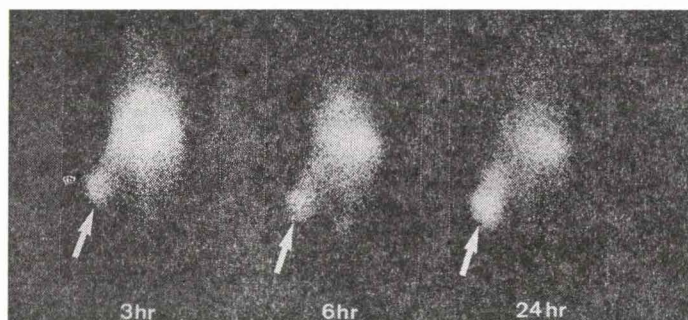


写真1 ^{99m}Tc 標識単クローン抗体によるヌードマウス移植骨肉腫のシンチカメラ画像

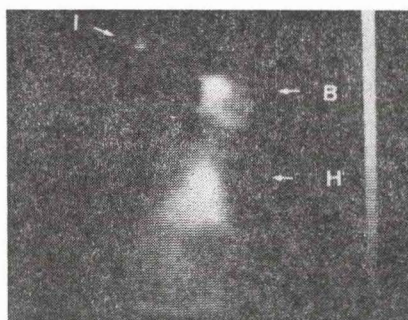


写真2 ^{99m}Tc 標識グルコース誘導体の体内分布

放射性医薬品出現の直前にあたる時期であり、本講座は早くからこの放射性医薬品研究を、本学医学部核医学と密接な関係をもって開始した。その後、医学部に超小型サイクロトロンと PET 装置とが設置され、ポジトロン核医学の研究・教育が行われはじめたが、本講座は、この領域にも研究の幅を広げ、それぞれの放射性医薬品に関する基礎的、応用的研究成果をあげた。最近本講座では、さらに、両放射性医薬品の特徴を生かした新しい放射性医薬品の研究に力を入れている。

研究成果の一部をつぎに紹介する。写真1は ^{99m}Tc 標識抗腫瘍単クローン抗体でヌードマウス移植骨肉腫を、シンチカメラを用いて描写した画像である。左から、3、6、24時間後の写真であ

り、左端の腫瘍部位に ^{99m}Tc が時間毎に集積する様子が示される。写真2はグルコースを母体にする ^{99m}Tc 標識化合物を家兎に静注し、放射能の動きを描写したシンチカメラ画像である。放射能（白色部位）が脳および心臓に選択的に集積している。抗腫瘍単クローン抗体による腫瘍の鮮明な画像および脳内に ^{99m}Tc が移行した画像はそれぞれ、 ^{99m}Tc 放射性医薬品研究ではじめての例である。写真3はポジトロン放出金属核種の ^{62}Zn 亜鉛を用いて標識化合物を考案し、それによるイヌの膵臓とその外分泌機能をポジトロンカメラで描写した断層像である。左の画像が膵臓、右下の画像はホルモン刺激で膵管に分泌された消化酵素量を示している。

現在、核医学診断でもっとも望まれる放射性医薬品、すなわち、つぎの時代を担う放射性医薬品は、ポジトロン放射性医薬品にみられる診断機能と ^{99m}Tc 放射性医薬品にみられる実用性とを同時に有するものである。写真2は ^{99m}Tc を用いて、また写真3はポジトロン金属核種を用いて、それぞれ、その可能性を示した画像である。また写真1はいうまでもなく、RI 標識単クローン抗体を用いるがんの診断、治療の可能性を示した画像である。

（薬学部）

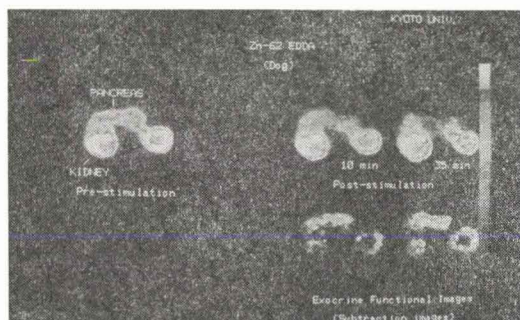


写真3 ^{62}Zn による膵臓の外分泌機能のポジトロンカメラ断層画像

訃 報

小野 尊睦（たかと き）（医学部教授・医学博士）

3月16日逝去、61歳。本学医学部卒業。昭和47年本学医学部教授就任。専門は口腔外科学。

田伏 岩夫（工学部教授・工学博士）

3月22日逝去、53歳。本学工学部卒業。昭和52年本学

工学部教授就任。専門は生物有機化学、物理有機化学。

竹田 是温（よしはる）（経理部事務官）

3月24日逝去、63歳。昭和34年経理部主計課勤務、経理部経理課を経て39年管財課に配置換。55年永年勤続者表彰（20年勤続）を受ける。

<資 料>

昭和61年度教育実習実施状況

昭和61年度における教育実習は42都道府県におよ

ぶ国公立の高等学校161校、中学校50校、養護学校3校の協力を得て、61年5月から62年3月までの間に実施された。

1. 学部別の履修状況

区 分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部	計
参加申込者	100人	35人	17人	9人	113人	1人	6人	54人	46人	381人
取り止めた者	3	3	4	0	7	1	1	8	5	32
実習終了者	97	32	13	9	106	0	5	46	41	349

2. 実習校の配当方式

区 分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部	計
京都市配当	市立中・高校	8人	人	人	1人	人	1人	人	1人	11人
	養護学校		4							4
	取り止めた者	0	1		0		0		0	1
	実習終了者	8	3		1		1		1	14
出身校	出身中・高校	92	31	17	9	112	1	5	54	366
	取り止めた者	3	2	4	0	7	1	8	5	31
	実習終了者	89	29	13	9	105	0	4	40	335

(注) 出身校は京都市立以外の国公立校である。

3. 教科別、校種別の人数

区 分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部	計
国語	中学校	7人	人	人	人	人	人	人	人	7人
	高等学校	14	6							20
英語	中学校	2	5	1						8
	高等学校	30	6	1	2					39
社会	中学校	8	2						1	11
	高等学校	35	10	10	6				2	63
理科	中学校				8		2	3	5	18
	高等学校	1	1		62		3	17	31	115
数学	中学校				1			6		7
	高等学校		1		35			20	2	58
計	中学校	17	5	2	1	9	0	9	6	51
	高等学校	80	24	11	8	97	0	37	35	295
養護学校	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計	97	32	13	9	106	0	5	46	41	349

(教職教育委員会)

